六家集

長秋 下

太政官文庫
和書門
特別
類 三二二九六
號 九三
函
架
冊 一八

内閣文庫
和書
特別
類 三二二九六
號
冊 一八
函 九三 甲
架

内閣文庫
番號 和 32296
冊數 18 (9)
函號 特93甲 6

炬

共十八

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

長秋詠藻下

雅亨

保延元年七月九日歌人

乃

[illegible]

懷古

[illegible]

[illegible]

保延五年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永治元年[illegible]

[illegible]月十余日月[illegible]

内裏の南方[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うへし

おゝ代まてと白んやとは菊のはなくとてきてみる

又安房の

長れの紫ちりのはなりけりて雪みまちりさみ武山里

うへし

ちりつもる雪をそうつ山里ハ雪ふる海とそひとをもる

又

ほさむ紫の染物ぬ本はりこゝ色みまきハ行わ

うへし

長はきの紫はなれよあるぬまとこゝみぬ本はり流れ

又

水の長月よんはとこゝ月りつゝこゝ海ハ

うへし

久長世の新どこゝそと流こゝそ月のこけんしよみぬ

又

こゝ月ハくみのやはは水ハこゝ海よりあるみと流

うへし

ゝ月ハ池はこゝみきを垂て人はいはれ紙みこゝ

又

みゝ人はこゝ月ハ宿あて行はこゝと行気はわ

うへし

こゝりの又ふれハこゝ海一水ハ長こゝ月ハこゝ

又

ゝ月やこゝハつゝ月ハ月ハこゝ月ハ月ハこゝ月ハ

みなんとつるのまうしたるとのの月
を法院はれ御四位殿ゆりて細
てれあるよるこのわるを房殿やわ水
月やうるるみくこれ門内裏乃ゑ
水ゐりくるるみるる
いすへ殿しれ月八ゑれ水殿やるるる
を未院るれ殿ゆてれさるゑ殿
又殿日を未有るいるに月殿
れるるくとあるめて殿るけ
るるみくゆるけ
のるるるる殿殿るるるるる

多殿院るれ殿ゆて係園るる
秋多殿殿小多殿殿ゆる殿殿
お載殿殿殿殿殿殿殿殿殿
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿
有女院殿月乃九三日殿殿殿殿
沖遺紙殿殿殿殿殿殿殿殿
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿
殿殿殿

とゝれのそ[illegible]ものやうそ[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]のあさを
入
入
入

[illegible]

師仲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

譬喻　其中衆生　悉是吾子
信解　無上寶聚　不求自得
菜草喻　無有彼此　愛憎之心
授記　於未來世　咸得成佛
化城喻　以大慈力　度苦惱衆生
第五　世尊於長夜　常愍見教化
人記　我命無有量　以慈心於衆
法師　衛見法古法　安定知近水
窮子喻　若皆持者　我即歡喜
挽薪　採薪及菓蓏　隨時恭敬与
勸持　我不愛身命　但惜無上尊
安樂行　深入禪定　見十方佛

涌出し　従地而涌出

地水火風之所[illegible]　[illegible]

[illegible]　況[illegible]滅不滅

[illegible]

今[illegible]功德し　若坐若行

[illegible]

弘誓深し　家族弟子十　同一隨[illegible]

[illegible]流の末[illegible]

法師功德し　又如淨明德

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

牧王　又如一服　無値深水孔

[illegible]

勸善　即往嘡　卒天上

無言義理　船師大船師

[illegible]

苦哭理　亦罪如霜雪　毒日強消除

[illegible]

心理

[illegible]

[illegible]

法乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六時懺

晨朝

朝は定[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次は彼かを[illegible]

男狐ゑるゝく歓乾乃函をそそてゆゝむ
ゆゝつゝ乾家ゝゝ陸ゝゝ海ゝゝ乾ゝゝ
彼ゝ公天八嘉の地をあゝく進りて香像白
香像此等乃大士ゝ他遇を
ゝゝゝ方狐ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日中時

他方界ゝり界ゝて八方ゝ飲食給りを
貴界ゝ仏乃れ国ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
飲食早ゝ三六ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
樹乃仏ゝゝ一実想乃理を相へ八功徳池の
仏ゝゝ世ゝ生滅乃義を唱へ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝて世ゝゝゝゝゝゝや池水ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕[illegible]の[illegible]を[illegible]
毗舎離城より[illegible]維摩居士来[illegible]
いま[illegible]
時に大衆法と同て[illegible]
時に[illegible]
いろ[illegible]
[illegible]

初夜時
見仏同法事早く中乃頃に[illegible]
或八金乃毛比中金文浄土の心或八[illegible]
場乃国の上浄[illegible]
[illegible]

半夜
東乃境[illegible]
乃人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後夜
暁到る[illegible]
欲[illegible]
[illegible]
[illegible]
見仏同法[illegible]

[illegible]
人乃第二不修信養〳〵乃時序不乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いひ伝へ
同流法風
寂莫無人聲　清澤光明
我今時　為現　猿猴山縁典
敬愚世廣演地獄の人数
又人乃ち一思惟供養

不乃ち
神の上代の天皇の御宮の月すむえん
神拾不　我等同記　心安具足
くりかへす　安永行不　若於菩中　但見数事
高くよみかへる　常在霊鷲山
丁丑のよ上代者よ
同不　為衆生
乃ち
もとよりみちすみ山
法神功徳不乃是人有不思惟供養言

流皆是佛法乃至[illegible]

[illegible]

弥陀経

三界を叡[illegible]

[illegible]賀義[illegible]

法[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷　道世

[illegible]

撰集抄に[illegible]

[illegible]

[illegible]

安元二年九月廿日比[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言

道世[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右大臣家百首

立春

あらたまのとしのはじめとなりぬれば
ゆきのうちにはるたちにけり

白雪

ふるとしのゆきのうちにはるたちぬ
としのはじめのしるしなりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月雨

[illegible]

八月雨

[illegible]

八月雨

[illegible]

八月雨

[illegible]

過不逢恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月

月は秋あきは月なる間なれやそれとそへてみるえ
なるもれしこそはなちよ清つきそあれ仲よすあり月
りつ名はとそ秋山はりとうくさあくさ秋は月新
のするるあ光秋光るるる月まやとう寺池城寺
世中秋うむこそみれと秋月はれえそ秋めてわる

祝

あさけさはよ人とは万代とあまやろてしまう寺
百ちちひこ鶴のこいとそとそる秋山とくさるるへし
いくちよ歩とさくん表日山えさくうう寺異秋松京
ちもせとと中くさしみりさ山松風月の紅くさる也

さうさうと紙をかれ山よりそへていとのちりやうの代のあ

草の花

秋はまづ萩すすきをさう花をそ咲りめりる
雁のつらゆくものくもあはれにもあはれつまくいみすらく
いとくやゆふ波ぬきりのへよりあてしりくあれにもみたる
小萩原のへとそ人の栖まてちらはやとくやおんなへし
あくくやゆふけさのへいとそ蘇れはもよりの萩もり

撫

みるはるくさみのあよ海山と新れかいはそはるよ
日数りまれ花どくそのはるくさそのあれ中山
をあれ物ゆゆ海くくれれ雁ゆ秋ゆ物くり
はるくくはちくやけさ月とみてやくんやくくりへよ

ゆふ人あり火くくやゆひわあてすくるよ袖れをくくル

名葉

像ひくすれ物紙みてそ山くくれ秋ゆくるる日をくくへ今
やくくれ物あくるわてやゆ三田奴秋れ葉れ及くくしくん
いくくやゆみちくすくん三田山れいはあはれあるのゆ
秋ゆくくまゆ葉れ山くくみちくわ石くいはあはくくれ
をいくくれ秋ゆみちくるくくやくれくるの山へよくくれ

述懐

くくれくくひれ来くくはくくこ家くあてくくへ今行
くめて世ゆくくいはゆくくれれくくれ雁くみれ行わ
くくれんれやくいくくれあれ物ひくくくれよゆあれく
去日袖れくくくれたの袖水まくくよ涙れくくあれ

れてよりのち後世まで来るまでまさにつえとなるべしと

言

究竟してのち言いたくは我月のうち我もまたんん

まれりしかれども我さきよりは言ふれたさきよりは若菩薩

道乃至の言葉に従ひ奉りみるに白めれみよりのち山

白ぬ乃いさこゆきくに天の月れ級のこと言ふしし

とくとくとしてもあるべしとつひに言か

非紙

非紙とは世間の文をらいとちよすあとこと延

年ことにいれしすべいとこれと義ゆよ此世間波

秋の言民と家とかりと仏義れ月れとのまりてくる

世さ波よりのみとすけ紙をつくるとに言ひまる

まへて世紙とすれば日本に非紙あるべしとの紙の

歳言

言とつくしハのみよりのんかとれぬ

言そのみいかやゆうん紙ひとに言つりあり

ひよくむかりそのれり年ハされ宝るうちまる

義さるよりする花紙を紙ゆそつりくる

光めそみとあんとにりの年よ波れむとそひつか

和歌

法花経 四要品 付普賢示

方便品

無量 無数 劫 聞 是 法 亦 難

そうれかすのさ世とに紙つくりとひさくいうさ遠

安示行品

不親近諸外道梵志尼乾子等及世俗文筆讃詠

[illegible]

出於氏宮去伽城不遠

[illegible]

普門品

受其瓔珞分作二分

[illegible]

如發品

從東方來示迹諸國普皆震動而來道

千五百番哥合之百首　　左方　沙弥釋阿

春二十首

[illegible]

夏十八首

八月無八瀧のうさ者の岩越てうき世の外に絶はん

右十首判者五御門内大臣隨有　勅定去年薨逝故無別

勝　八月無八瀧のうさ者の岩越てうき世の外に絶はん

月　海すゑ遠やま山ひろんとうたりしかの月夕間なれ

月　大井川かつらの月のあはれ世にあはれ世にあはれ

持　山乃井清むしてひて行八これ世にあはれ世にあはれ

勝　鳴滝やすれ河せよみそ世にあはれ世にあはれ

秋二十首

持　ひさかたの秋やさんの月ハ八ふ乃月

持　風乃音秋萩のうへにこそ秋ハ来

持　七夕のあはれ世にあはれ世にあはれ

持　夕月夜まそ乃ひかりの月ハ八ふ乃月

持　芦根ハ乃ふ乃ふ乃ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬十又首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]

恋中也 百首

[illegible]
[illegible]
[illegible]

宗德院殿別てそれを行て
及御供をわたくし共をつとめ
れくるこそ有難なりけり
このみよれ義業下かけり物をつと
とそれしらしかり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為後日之為証文如件

若狭ノ国ノ内ノ事

大中臣ノ為ノ

みおくりの

[illegible]

この西乃[illegible]

返し二首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて年人乃神祭神事ゆえ
しきりとすすめられし
まつの乃日小のちむしそれらんあわら
とすすめ毎ものわけしまんとひ
てかねのりしわいられわる

中将

さすがとうるゆえ義経そはのあひ若しえ
し毎ものはもかひ此ひ
うそそと紙ひ
はせる義経はの
ゝとすめらへ

少将

百首ゆとうそへく
ゝ入乃毎百

首しいつ和ゆ
られくて門のうとして日石
ゝ毎ひもよ伊とうんうゝ伊
伊しうゝ
ゆへを
ひ
ゝ
ゝ
ゝ

日よりへて宮内卿宮様より物ふうとゝ殿ゝより殿ゝへ
のへし
ゝ殿ゝ宮内卿宮様より殿ゝ山ゝ殿ゝへ

子日小行原山野より鹿を追ひとらるゝ
仕合の伝あり
鹿ゝく喜氏光より国とゝの事ハ之ゝ仕合氏松
芝中当あり氏人の命あり
苦敷物ていとゝきゝ当ハ色さへ〻あり氏わ
人家并のへより梅色さしとゝ氏
のへゝく梅氏ゝ後あれくやゝの色ゝあり氏れ

三月

伊勢通去弱あり
去ゝ氏氏源ゝ氏氏ゝ氏氏ゝ氏氏

あやめもわらふ人家もあるかとあり
後ちひさくなりて後あやめ葉の間より孫しるし
人家の庭よりそこにこそ花ちらふ
宿りもさらぬなりけりこの代は秋まはるなる

六月

山井坂過よりくぬぎ林あるかとあり
立ち寄郷ちかき山井坂をもじりたる人ちかの
のへのこれの方なるなりけさふ
なりけるさのへはさゆりし風ふて秋ハ家ゆりの花ふ
河過よ六月ちかくしらふ
京ちかあやめもさきまいりの代まあ行つ

七月

山野并人家秋風吹こうふ萩とあり
枝ふ秋ちかく萩のつゆこそ秋ハ宿ちかく
野のむこうよりひとつ人ちかあつもりて
入ちかくあつ
後人のちかの花野あるこころとの人まみりる
去日山よ麻あつ
去日山よりの月ちかく枝ふ秋ちかくふ

八月

人の家池よりくぬぎ枝月ふ
池水のうちのさ月ちかくこころ宿ちかく後人
あり坂花を紅よりの弱しく
秋みの世よりあり坂山花ちかく梁ちかの数ちかの月花数

四ツ谷より人家あるなし

秋はぎ見いりの田ども家居したるさまなつかしん

九月

ある山中さくさくわけいるなし仙人にも

とみる

仙人はもの独自にさくらいすとかの人

山野并人家よりみちさくりてしてく

敬不

ふるみの海をおしはれみちとはれわふこ海をあ

海のりりよ旁立ふわくるなし

手取をはれはれ取ものとやらとあて旁ふ

十月

海へよりわあまの人はれ汐やとトあり

三方は海あまはもりやとてくはれたりあ代なる

あるよ人あるまわるなるあ無あり

後を仕やそうし何はあるいよりみはそんさ

江源は通よ言苦しくりけるなしあり

ゆうくさ芦への子はくさそうはいつ蛇衣

十二月

文芸はまいはなし

山女子のそはるのひらそはありトそ人今わ

賀茂はもんはまるしの山はは秋

乃すくさ

月ゆるみくさ川は氷て氷よりあるあ山の見そ

の人よ寄りしくるに
みとれる人のみをくれるすまの浦に寄る乃明朝
十二月
四位の不神系此の屋の前に
しらくもの天に出でたる所
山野乃樹竹よ言つのりしらぬ人此歌あり
みこうり地山をあり乱れまて此歌をまとる宮
しに此歌を山しわ風本こうて知らず
ひろれて山りよ伝ゆるまに此しへよいそ伝
沼橋乃れ屏風よ和歌二首夏乃樹陰
納涼しらず
みの代に宮此山人よ三月に此こを流く宮本を
行

池水名つり水名あり
みそれて池乃こを水のてみきそへしちよのなる
うそへ人なる水の中に此歌二首
よみてなれしわけとみる絵しなて
まろうむ宮りを走りつて
つよりし絵乃
此歌くこの内を走りて
走りつけなれしわけと又変
きめれしわはみつ乃
うるはしけるはて且一首を
つけてなりしいるをきめれる
七首と此屏風の中此

七八

かの乃ゝすゝ初めしゝ年也ゝ乃ゝ
ゝゝ人ゝゝ奉ゝゝ下ゝ右の如くゝゝ大ゝ
事の為ゝ隆信朝臣ゝ新ゝ長ゝ入乃
ゝゝ八人ゝゝ
かゝゝゝゝゝ歳ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan